

## 第9回立川市地域福祉推進委員会 意見交換(まとめ)

### ○感染拡大の影響・現状について

- ・民生委員の活動以外についても、地域のほとんどの行事が行えず、地域のつながりの希薄化を感じている。
- ・コロナ感染防止のため、地域活動の多くが自粛対応を余儀なくされ、しかも長期化している。
- ・人のつながり、外での活動をやりたいが、賛否あって、やっぱり人が集まる＝感染するのではと不安が強い方、ずっと家だと精神がやられてしまうので、誰かと話だけでもしたい方とあり、どちらに基準を合わせるべきか？悩む。また公共施設が使えなくなってしまう事も大きな影響だった。
- ・ボランティアスタッフ、参加者が集まりづらくなったこと。コロナ感染の懸念からボランティアに参加しようとする人が減っていると感じる。それに加え、日常生活で人との交流が減ったことから参加を誘いづらくなり、ポスターなどで宣伝をしているがあまり効果がない。また、参加者も突然濃厚接触者や感染者になってしまうと数週間活動に参加できなくなってしまい、参加者が減って活動しづらくなる。
- ・感染対策の実施が負担になっていること。感染拡大防止のため検温を実施したり、使ったものを消毒することが活動の負担になっている。また、活動の中で飲食のイベントを開催したいなど参加者のやりたいことが感染予防のため実施できないことによって参加者の活動のモチベーションが低下している。
- ・福祉活動における「参加者名簿 /健康チェックシート等」の必要性に伴う内容。イベント開催後・若しくは潜伏期間終了後の個人情報保護に関する取り扱い。また、それらの取り扱いに対する参加者への告知。(なかには個人情報保護に対し、神経質な方もいる事でしょうから)
- ・オンライン活用が進んだことはよかった。
- ・高齢者を含め、今後のオンライン活用方法をどうするかが課題である。
- ・学校では外出制限により、集団行動に慣れていない子がいるように思う。
- ・SNS では自分のペースで相談できることがメリット。
- ・子ども若者への支援が不足しているように思う。
- ・(両親共働きで子どもが一人で遊ばなければいけないことがあるが、) iPad で子どもが遊び続けるのは発達に影響することもあるので注意が必要である。
- ・こうした制限のある生活を乗り越えた子なら、これからものすごく可能性を秘めているかもしれない。
- ・当たり前に行っていたことができない喪失感が大きい。
- ・オンライン参加できない人が取り残されないようにするにはどうするか検討が必要
- ・ワクチンを受けたくても受けられない人がいる。一方で、ワクチン未接種の人に対して入店拒否をする場合もある。孤立を防ぎ、不安を取り除くためのサポートやアドバイスの検討が必要になってくる。

- ・(オンライン化が進んだことで)インターネットを使えない人はとても不安を抱えている。
- ・視覚障害を持つ人はヘルパーがいないと全く外出できないこともある。
- ・聴覚障害を持つ人のオンライン参加について、手話通訳者の対応が難しい。
- ・情報弱者に対するサポートの在り方は検討が必要である。
- ・在宅勤務が浸透し騒音問題が生じており、2件ほどは訴訟になっている。
- ・マンションエントランスの使用用途や機能の変化がみられる(子どもたちの遊び場や勉強スペース、高齢者が歩行訓練をし、談笑できる憩いの場となっている)。
- ・民生委員の選定について、情報が集まってこない(どの人がふさわしいなど)。
- ・地域がコロナ禍で止まっただけでなく、人材育成のバトンが途絶えてしまったような印象を受けている。
- ・今後コロナ禍のような状況になっても地域が止まらないようにオンラインとリアルの切り替えをスムーズに行えるようにすることが重要になってくる。
- ・デメリットだけではないので、課題やよかったことを整理して今後に生かすことが重要になってくる。

#### ○上記を受けて見えた地域生活課題について

- ・地域を引っ張っていく、主体になっていく人が高齢化しており、後任が育っていない。
- ・仕事をリタイヤする年代の方でも、元気な方は多いが、同じ人がずっと役割を担う、というところに課題があるのではないか
- ・地域のお祭りの実行委員会も、新しい運営の仕方を考えていけたら良い。氏子だけで運営するには限界があり、コロナ禍で中止が続いている。子ども会や地域の若い人たちも巻き込めればよいと個人的には感じている。
- ・自治会が続かなかったり、抜けてしまっている人が目立っている。地域で生まれ育った人たちも抜けてしまっている。発災時など、隣近所の情報が大切であり、近所づきあいの必要性を認識しているが、意識の差を感じる。
- ・高齢化、価値観の多様化等と相まって、組織力(自治会加入率等)や地域力(連携、共助等)の低下、コミュニティの希薄化が危惧される。特に、高齢者の孤立化が心配である。
- ・コロナで子育て世代の収入も減っていて、実際に自身も収入が減っている。子どもへの食の支援が必要だと感じている。食に対する支援をしているところもあるが、縁がなければ知らないままの人もいるのではないかと思う。また、食の支援の時間が日中だったりすると、仕事の時間と被ってしまっていけないこともある。
- ・コロナによってサークル活動もオンラインに変わっているが、高齢者がスマホやZOOMなどの使い方が分からないため、うまくサークル活動が進まない。閉じこもると、地域のつながりが希薄になってしまう事。逆に意見交換できたりなどのおしゃべりの機会がないと、どんどん内にこもってしまい、正しいかどうか分からないネ

ット情報が先行してしまう状況が見えてきました。

- ・子供たちの家庭、学校以外の居場所の少なさ
- ・子供たちの親以外の大人と関わる機会の少なさ
- ・ボランティアスタッフのモチベーションの低下への懸念

### ○求められていること

- ・農業者としてあいプラに出席しているが、収穫体験を広げていくことが、コミュニティーを広げていくことにつながると感じている。増加している耕作放棄地も活用できるのではないかと。(農福連携)
- ・ウィズコロナを踏まえた地域活動の見直しと、地域各種団体の連携策の具現化、見える化の促進等。
- ・食に限らず、地域のさまざまな情報を得られるようなところがあればいい。西砂地区だと、西砂学習館で得られる情報、西砂会館でなければ得られない情報もある。市内の情報を網羅しているようなところがあればいい。
- ・スマホや ZOOM などの IT 関係について、いつ行っても相談できたり、自宅に来てもらってレクチャーをしてくれるような人、機関があればいい。
- ・ダメだからやらないではなく、少しでもやってきた事が続けられるよう工夫する力と、時代の変化に対応し解決していく能力が求められる。あれもこれもできないではなく、これならできそうだを見つけていく、ポジティブな思考が必要で、それを団体の活動の原動力にしていく必要がある。
- ・新型コロナ感染拡大の影響で多くの地域活動が活動の停止や団体の解散をしたと思う。今ある活動団体が活動を維持できるように地域福祉コーディネーターなどがサポートを行うことが求められると考える。
- ・交流の場に出て来るようになった方が、再びコロナ感染懸念などから振り出しに戻ってしまう事も懸念されると思う。
- ・高齢者や孤立者等をターゲットにする犯罪に対する情報共有も繰り返し行えるといいのかもしれない。

### ○その他

- ・(あいプラの開催形態について)対面での会議形式の方が、意見を話しやすいと感じている。
- ・西砂学習館で和室を使ってヨガサークルをしたかったが、空いている保育室を借りようと思ったら、その用途ではないので貸せないといわれてしまった。空いているのであれば活用した方がいいと感じた。
- ・ヒーリングセンター(名称が定かではない)がほしい。無料で癒されるような場所が地域にあるといい。癒されるような音楽がかかっていたり、いつでも受け入れてくれて、年代問わずに落ち着ける場所があればいい。リセットする場所。